

編集後記

会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。ここに、京都大学土木会会報No.57をお届けいたします。本号の編集にあたり、会員の皆様からご寄稿をいただき、発行に至ることができました。皆様方の多大なるご支援・ご協力に、幹事一同、厚く御礼申し上げます。

皆様ご存知の通り、工学部地球工学科および地球系専攻では、教育と研究の国際化を積極的に推進しています。2019年度の本会総会において、米田稔新会長から紹介がございましたように、京都大学ではKyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program) という新しいプログラムを開始しました。このプログラムは、最優秀層の留学生を獲得し、極めて高度な人材の輩出と日本社会への定着に貢献することを目指しています。学生の選考では、日本語能力は問わずに、学力を最重要視します。入学決定後は、日本語教育を受けながら、英語による教養・共通教育、英語または日本語による専門基礎教育を経て、専門教育段階からは日本語で講義等を受講します。地球工学科でも今年度1名の学生を受け入れております。これまで京都大学の中で、日本語に習熟していない学部学生の教育を実施してきたのは、地球工学科国際コースだけであり、Kyoto iUPの運営においては、国際コースを参考とするところが多いようです。これは、工学部地球工学科と地球系専攻が全学において国際化のトップランナーであることの証左であろうと思います。これもひとえに会員の皆様のご支援があつてのことと存じます。ここに深く御礼申し上げます。

今年度の役員会・総会では、「椿の会」(京土会女性の会)の設立が認められました。椿の会は、京土会学生会員に対し、卒業生のキャリアを紹介し、将来設計をサポートすること、ならびに、京土会女性会員の交流およびキャリア・ライフイベントについて相談できる環境をつくることをその目的としています。過去二年間ほど、在学生と卒業生の交流や在学生への情報提供などの活動を重ねられてきました。今後は、支部と同じ位置付けで活動されることとなります。椿の会は、京土会「女性」の会ですが、その活動内容は、男女問わず大変有意義なものと思います。会員の皆様におかれましても、周りの(とくに若い)卒業生の方々にご紹介頂ければ大変幸いです。

今後とも引き続き、会員の皆様のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2019年度 幹事

市川 温, 高橋 良和, 西村 文武